

高崎市 第6次 総合計画

2018年度 ▶ 2027年度

変革する高崎



はじめに

高崎市第6次総合計画は高崎市をさらにたくましく、豊かに発展させていくための実現可能な都市戦略です。基本的な考え方は、高崎に「人・もの・情報」を集積させ、ビジネスを盛んにする。また大地の恵みやものづくりの技術を生かした生産活動を活発にする。そしてこれを基盤とし、福祉や子育て環境、教育、文化芸術、スポーツなど市民生活を豊かにしていきます。

この総合計画を基に、市民の皆さんが「いつまでも、ずっと暮らしたい高崎」にしていくために、「出来ることは、何でもやる すぐにやる」姿勢で積極的に取り組んでいきます。

高崎は今や首都圏と北陸・上信越を結ぶ中心都市としてその存在感を高め大きく動いています。美しい自然環境と活力ある都市機能が融合し、多様性と個性的な文化のあるまちとしても注目されています。

高崎アリーナや高崎駅前に商業施設がオープンし、2019年秋には高崎芸術劇場もオープンします。また、群馬県により高崎競馬場跡地にコンベンションセンターも設置されます。これらにより、高崎の集客力は飛躍的に向上すると考えられます。現在においても、高崎を中心に新たなビジネスを展開しようと、大手企業の支店や営業所が、市外県外から次々と移転してきているところであり、その流れに拍車がかかります。

高崎アリーナではトップアスリートが集まり、全日本・世界レベルの大会が連続して開催されています。人気ミュージシャンによる大型コンサートも行われるなど、市内だけでなく群馬県内にも大きな経済効果を生み出しています。

昭和から平成にかけて一貫して減少傾向となっていた高崎のまちなかの通行量も、2012(平成24)年の中心市街地通行量調査から増加へと転じ、延べ1日約15万9千人に、さらに2018(平成30)年には延べ1日約28万2千人と、2012(平成24)年から見ても約78%も増加、人口増加が著しかった昭和50年代の水準に戻っています。JR高崎駅の乗降客(JR東日本乗車人員より加工)も、2012(平成24)年度は1日約5万7千人でしたが、2017(平成29)年度には約6万2千人となり、この5年間で約5千人増加し、初めて6万人を超えています。高速道路の出入り台数(ネクスコ東日本資料より)も、高崎玉村スマートインターチェンジでは、2014(平成26)年2月の開通以来、着実に増加しており、2年目には1日平均6千台、3年目には7千台を超え、直近では1日平均8千台を上回ることも多くなりました。そしてこれらの新たな動きが中心市街地ばかりでなく、高崎市全体に活力と新たなにぎわいをもたらしています。東京や大宮などに向いていた若者の目線・動線が高崎に戻ってきています。さらに群馬県内からも「高崎にはワクワクすることがある」という雰囲気を生みだしています。

今、高崎市はさまざまな分野で注目を寄せられています。中でも「高崎の食」がブームをつくりだしています。高崎市では以前から東京ドーム・ふるさと祭り東京や大阪・食博覧会など食のイベントに出展したり、農畜産物や加工品のキャンペーンを行ってきました。当初は全くといっていいほど知名度がありませんでしたが、繰り返しチャレンジすることで、飲食店経営者や生産者のモチベーションが高まりブランド力も向上し、首都圏での知名度は徐々に高まってきました。

新たな取り組みとして、市内の零細ですが老舗の飲食店をインターネットでPRする「絶メン」を始めました。新聞・テレビなど多数のメディアに取り上げられた結果、紹介された店だけでなく、全国から「高崎」が注目を受けることになりました。

地元の人たちに愛されてきた「まちのグルメ」が、工夫次第では日本全国に発信され、人を呼び込むことができる。これは全国初の取り組みで、地方文化の新しい発信手法です。今後も知恵を出し合い工夫を重ねていくことで「食」以外でも高崎を再発見し、高崎の魅力を情報発信していくことができます。

また、安心感のある市民生活を実現するためには、これからの社会は女性の活躍と子育て環境の充実が大きな課題です。その取り組みの一環として、例えば高齢者福祉と子育ての複合施設「シルバーセンター田町・子育てなんでもセンター」を開設しました。育児に関する相談なら何でも受け付けるワンストップサービスで、子育て世代の仕事と育児の両立を実現するため、プロの職員が子育て相談や就職支援に当たっています。

お年寄りや障害のある人への支援として「待つ福祉から出向く福祉へ」を合言葉に、従来の地域包括支援センターを廃止し、地域ごとに「高齢者あんしんセンター」として設置し、拡充させるとともに、「障害者支援SOSセンター」を開設しました。電話一本で介護スタッフが駆け付ける「介護SOS」や、GPSを使った「はいかい救援システム」など、全国でも類を見ない手厚い支援事業も実施されています。

こうした支援を充実させることで、地域社会に住む誰もが、住み慣れた地域で安心して暮らすことのできるまちづくりを進めています。「いつまでも、ずっと暮らしたい高崎」にしていくために、これまでの取り組みをさらに充実させていきます。

さて、これからの高崎市の都市づくりの前進ぶりをデータで見てください。「高崎市の実力は全国何番目なのか？」など高崎市の都市としての実態や実力を把握することが大事です。

最近、高崎市は「全国から注目されるようになっていく」、「全国の地方都市の中でもがんばっている」との評価がメディアで取り上げられるようになりました。では果たして高崎市は全国で何番目くらいにランキングされる都市なのでしょう。さまざまな統計数値から高崎市の姿を検証してみると、高崎市は全国の人口50万以上の都市がライバルになっていることがわかります。全ての分野で上位というわけにはいきませんが、高崎市の実力が、全国を代表するような都市と肩を並べるようになったことも、最近の高崎市の成長や発展を表しているといえます。

例えば、2016(平成28)年経済センサスによる高崎市の卸売業・小売業の売上高合計額は全国15位となっています。中核市47市の中では連続して第1位です。20位以内の都市は高崎市を除き全て政令指定都市で、商業については政令指定都市と競争しているのです。

この他にも高崎市は全国ランキングに登場します。地域の幸福度を指標により比較した、幸福度ランキング(東洋経済新聞社)では、2016年版において、総合ランキングが中核市の中で全国3位となるなど、毎回上位に位置しています。また、働く世代2万人を対象に満足度を調査した、活力ある都市ランキング(日経ビジネス2016)では、全国29位となっています。さらに、統計データから試算できる全国順位では、産業売上高は全国32位、県内1位(2014(平成26)年経済センサス)などとなっていて、高崎市が戦う土俵は全国であることが示されています。また、20~59歳のビジネスパーソン1万5千人に働きたい街(駅)を調査した、働きたい街ランキング関東版(転職情報サービスデューダ2018)において、高崎が20位に入りました。首都圏の大都市が名を連ねる中で、高崎市が魅力的な都市になっている証拠でもあります。

このようなデータは、高崎市の人口は37万4千人ですが、既に50万都市と同じ規模と機能を持つ都市であるということを示しています。

今、高崎は根本から生まれ変わり質的な変化を遂げています。「関東と信越つなぐ高崎市」は、単に「つなぐ都市」から文字通り「中心都市」「創造都市」としての機能と役割を持つ都市に「変革」しています。

この高崎市第6次総合計画では、企業誘致、商業・工業・農業の活性化、新しい都市型サービス産業の育成。高崎アリーナ・高崎芸術劇場・高崎駅東口再開発などにぎわいを創出する都市政策。潤いのある穏やかな暮らしをもたらす福祉、介護、子育て支援の質的充実。教育、文化、スポーツ、市民活動の振興、快適で安全な住環境の整備。これらの施策を「高崎でしかできない、高崎らしいやり方」で実現していきます。そのために「変革する高崎」を掲げて、細やかさと大胆さを持って実現できる計画としていきます。

高崎市長 富岡賢治



高崎市 第6次 総合計画

2018年度▶2027年度

変革する高崎

都市づくりの基本的な考え方

第1節 都市づくりの基本戦略

- | | |
|-----------------------------|----|
| 1 拠点エリア方式の経済発展による都市づくり | 10 |
| 2 バランスの取れたたくましい産業を育む都市づくり | 12 |
| 3 交流人口・集客人口の増加による都市づくり | 12 |
| 4 高崎スタイルの生活の実現に向けた都市づくり | 13 |
| 5 文化活動とスポーツ環境の整備による都市づくり | 13 |
| 6 地域の特性を生かした振興策による都市づくり | 14 |
| 7 誰もが安心して暮らせる充実した福祉による都市づくり | 14 |
| 8 子育て環境の充実による都市づくり | 15 |
| 9 教育の振興による都市づくり | 15 |
| 10 地域における保健医療の充実による都市づくり | 16 |
| 11 地域防災力の強化による安全・安心な都市づくり | 16 |
| 12 情報通信技術の活用による都市づくり | 16 |
| 13 市民力を生かした都市づくり | 17 |
| 14 国際化に対応したグローバルな都市づくり | 17 |

第2節 地域の特性を生かした振興策による都市づくり

- | | |
|--------|----|
| 1 高崎地域 | 20 |
| 2 倉渕地域 | 22 |
| 3 箕郷地域 | 23 |
| 4 群馬地域 | 24 |
| 5 新町地域 | 25 |
| 6 榛名地域 | 26 |
| 7 吉井地域 | 27 |

第3節 主要施策

総務教育

地域防災力の強化	30
効率的で健全な行財政の運営	31
市民参加と地域づくりの推進	32
芸術・文化の振興	33
スポーツの振興	34
学校教育の充実	35
生涯学習の充実	36
健康教育の充実	37
中等・高等教育の充実	38
文化遺産の保護・継承	39

保健福祉

保健予防・生活衛生の充実	40
救急医療・地域医療体制の充実	41
地域福祉の推進	42
高齢者福祉の充実	43
障害者福祉の充実	44
子育て環境の充実	45
生活支援の充実	46

市民経済

人権尊重・多文化共生社会の推進	47
安全・安心な地域社会の形成	48
公共交通の充実	49
社会保障制度の充実	50
循環型社会の形成	51
生活環境の保全	52
飲食業の活性化支援	53
卸売・小売業の振興	54

製造・ものづくりへの支援充実	55
生活関連サービス業の振興	56
専門的職種の活動支援	57
観光の振興	58
農林業の振興	59
就労の促進	60

建設水道

良好な住宅・住環境の創出	61
緑豊かで快適な空間の創出	62
適正な土地利用の推進	63
都市機能の充実	64
円滑な道路交通網の確立	65
都市景観の形成	66
上下水道の安定運営	67

人口動態・財政の見通し

高崎市における人口動向の特徴	70
人口の推移	73
財政の見通し	79